

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成25年6月
鹿児島市（鹿児島県）

全体総括

○計画期間；平成19年12月～平成25年3月（5年4月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

認定された基本計画に基づき、「海と陸を結ぶ南の“歓・交”拠点都市の創造～観光・商業・交流によるにぎわいのあるまちづくり～」を目指し、九州新幹線の全線開業も見据えて各事業を実施した。

その結果、居住人口の堅調な推移に加え、交流人口の増加によって、まちの活性化に好影響をもたらされ、中心市街地ににぎわいが戻りつつある。

陸の玄関である鹿児島中央駅地区では、再開発等によって都市型住宅、商業・業務・宿泊施設と併設するバスターミナル、地元食材の美味を楽しめる屋台村などの都市機能が充実し、新たな人の流れができるとともに、公示地価も上昇傾向にあり、基本計画と新幹線全線開業による効果が顕著に表れている。

南九州随一の繁華街いづろ・天文館地区では、集客拠点の整備によって商業だけでなく、子育て、交流、文化・娯楽機能といった新たな魅力が加わるとともに、We Love天文館協議会等による年間を通じた多彩なイベントの実施など、ハード・ソフト両面でのまちづくりにより地域の一体感が生まれ、人の流れが戻りつつある。

海の玄関鹿児島港本港区を有する上町・ウォーターフロント地区では、錦江湾・桜島といった世界に誇る美しい景観を背景に、花火大会やクルーズ船の運航などが市民や観光客に定着しつつある一方、鹿児島駅周辺の大規模な低未利用地は具体的な整備に至っていない。

中心市街地の活性化に特に寄与している事業として、マルヤガーデンズの整備事業があげられる。三越鹿児島店跡の建物を改装した当該施設は、買い物場だけでなく、NPOや市民が活動を発表し、交流できる場として機能しており、いづろ・天文館地区の空洞化を防ぐとともに新たな集客・交流拠点としてにぎわい創出につながっている。

また、LAZO表参道の整備事業は、いづろ・天文館地区に不足していた文化・娯楽機能を整備するものであり、当該施設内の天文館シネマパラダイスの入館者数は当初の見込みを下回っているものの、施設の属する商店街では、整備後の歩行者通行量が整備前の2倍を超え、1階部分の空き店舗もなくなる（H25.1時点）など、周辺への波及効果が表れている。

さらに、鹿児島の食文化を提供するかごつまふるさと屋台村は見込みを大きく上回るにぎわいを創出しているほか、市電の軌道敷緑化は、鹿児島らしい都市景観を創出し、その姿は本市の魅力を内外に広く発信する役割を果たすとともに、沿線のヒートアイランド現象の緩和や騒音の低下などにも一定の効果があつた。

新幹線全線開業は様々な好影響をもたらしたが、平成24年夏以降、新幹線の乗客数や県内の月別宿泊客数が前年を下回るなど、その効果が落ち着きつつある。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか(個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

基本計画に位置付けた80事業のうち、79事業に着手し、1事業が未着手である。

主要事業である老舗百貨店山形屋の増床事業が厳しい経済情勢の中で未完了となっているほか、照国表参道商店街におけるアーケード整備事業が関係者の合意形成が遅れたことにより未着手となっているが、総体として計画は順調に進捗した。

これらの取組により、市電軌道敷緑化、市街地再開発、観光施設の整備など都市機能の集積が進み、官民一体となったソフト事業も活発化したことで、年間入込観光客数は着実に増加し、直近の平成23年に過去最高を記録した。

また、歩行者通行量は減少傾向にあったものが下げ止まり、平成24年の実績値は計画期間内で最も高くなるなど、目標値を上回ることはできなかったものの一定の効果が出ている。

一方、長引く景気低迷に伴う消費の冷え込みや電子商取引などの通信販売の増加、中心市街地外への大型商業施設の立地等の影響により、小売業年間商品販売額は低迷している。

小売業を中心に発展してきた中心市街地では、交流人口の増大により、飲食・宿泊・サービス業などの集積が進みつつあり、把握すべき動向が変化している。

このほか、目標指標ではないものの、中心市街地内の居住人口は堅調に推移し、また、空き店舗率は平成25年2月の調査で過去10年間で最も低い値まで改善した。公示地価は鹿児島中央駅地区では上昇傾向にあるが、他の地区では下落傾向にあり地区ごとにばらつきがある。

このように、多くの観光客が訪れるようになり、来街者が増えたことなど、中心市街地の活性化には一定の成果が現れ、若干の活性化が図られたと考える。

3. 活性化が図られた(図られなかった)要因(鹿児島市としての見解)

計画した80事業に対し、79事業に着手し、市街地の整備改善や商業の活性化などの5つの施策を総合的に実施したことで、一定の成果が得られた。

計画期間内には、三越鹿児島店の閉店など策定時には想定していなかった厳しい局面もあったが、毎年度フォローアップを実施し、目標達成に寄与する新規事業を速やかに追加できたことで、負の影響等を最小限に抑え、追加事業による効果が発揮された(当初63事業、最終年80事業)。

大型商業施設が中心市街地外へ相次いで出店する中、いづろ・天文館地区においては、老舗

百貨店、各商店街、企業等が危機感を共有し、大同団結して設立した We Love 天文館協議会を中心に、関係者が協力して、年間を通じたイベント等の実施など中心市街地の活性化に取り組むようになった結果、歩行者通行量の押し上げに貢献した。

新幹線全線開業効果を十分に活かすため、本市の陸の玄関である鹿児島中央駅地区における住宅・業務・バスターミナル機能の整備や、いづろ・天文館地区における文化・娯楽・交流機能の整備など活発な民間投資が次々に行われた結果、まさに新たな魅力が創出され、市の内外から多くの来街者を集めるようになった。

利便性の高いまちなかにおいて、維新ふるさと館のリニューアルやかごつまふるさと屋台村、甲突川右岸・左岸等の整備とともに、ボランティアガイドによるまち歩きの実施など、買い物、飲食、アミューズメントなどの魅力と、歴史、文化、自然や温泉など本市固有の観光資源を楽しんでいただく都市型観光の振興策は有効であった。

4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組をふり返ってみて(協議会としての意見)

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

鹿児島市中心市街地活性化協議会としては、行政、関係団体等と協議・調整しながら、中心市街地活性化の推進を行った結果、第1期計画に位置付けられた事業は概ね順調に実施されたと考える。

中心市街地内において、新しい複合商業施設の整備やにぎわい支援事業などのソフト事業の実施、さらには九州新幹線全線開業効果もあり、歩行者通行量や入込観光客数は増加傾向に転じ、第1期計画の推進が、中心市街地の活性化に相当程度の効果があったものと評価できる。

一方、厳しい経済情勢により未完了の事業等もあり、第1期計画に掲げていた3つの数値目標についても、「歩行者通行量」は基準値を超えたが、目標は達成できなかった。「中心市街地の年間入込観光客数」は平成23年に過去最高となったが、目標達成は難しい見込みとなっており、「小売業年間商品販売額」も目標達成できない見込みであることから、第2期計画の推進に向けての課題も残った。

今後は、第2期計画で掲げた目標の達成に向け、第1期計画の事業効果を生かしながら、市民等各層からの十分な理解や参加のもと、引き続き官民一体となって中心市街地の活性化に取り組む所存である。

5. 市民からの評価、市民意識の変化

【活性化状況】

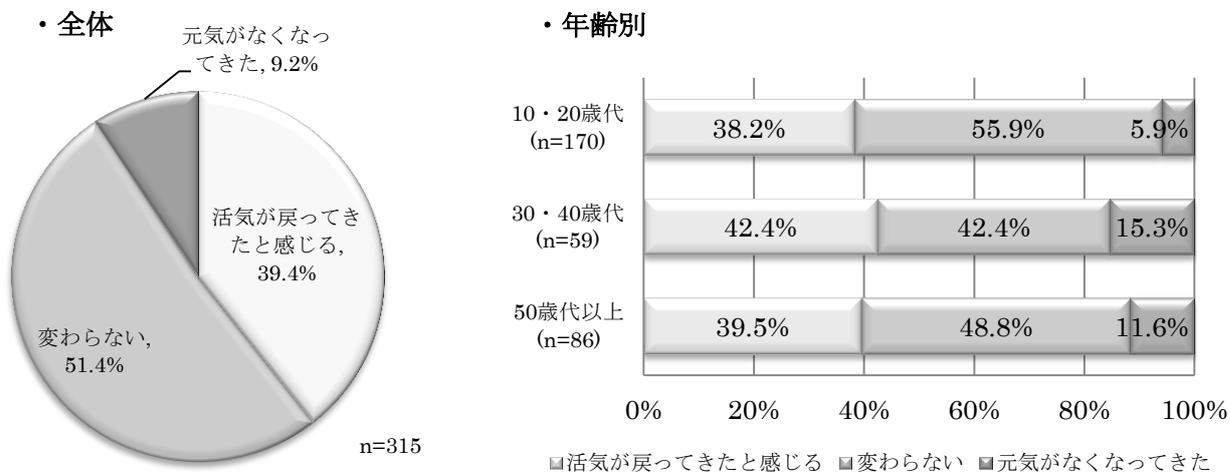
- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

第5回鹿児島都心部消費者回遊行動調査

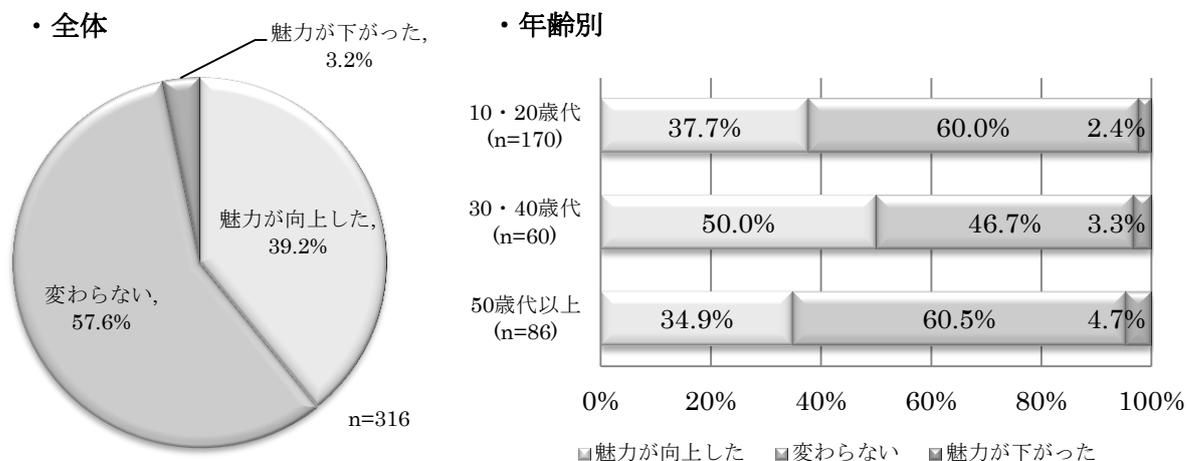
- ・調査日時：平成24年11月10日（土）、11月11日（日） 11:00～19:00
- ・調査地点：中心市街地内の主要商業施設 計6地点
- ・調査方法：調査地点に訪れた来街者を対象に聞き取りアンケート調査
- ・有効サンプル数：355票

①取り組みが行われる前の平成19年と比べて、現在の中心市街地のにぎわい（人通りや活気）はどうなったと思いますか。



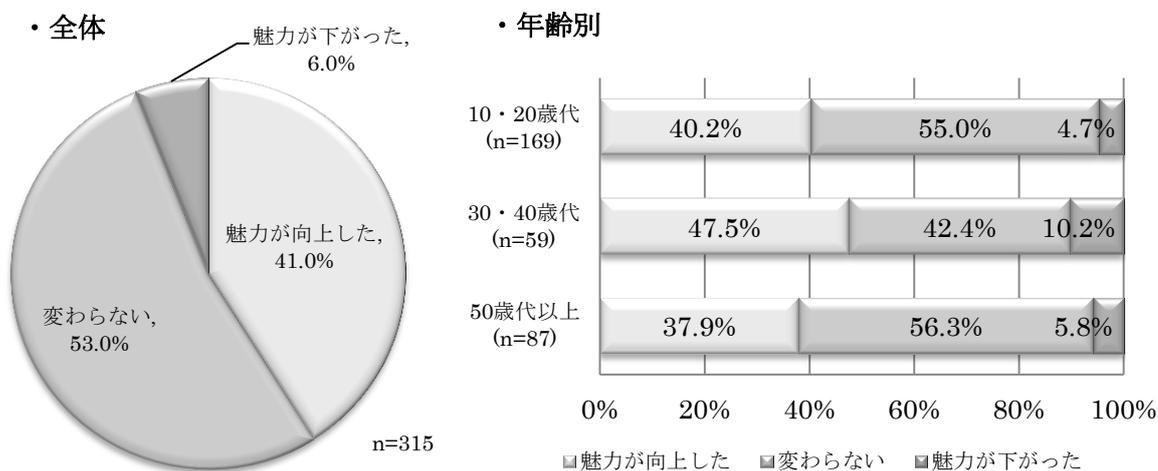
- ・活気が戻ってきたと感じると回答した割合が約39%で、元気がなくなってきたと回答した割合の約9%を大きく上回る。
- ・年齢別で30・40歳代は、活気が戻ってきた、または元気がなくなってきたとの回答割合が他の年代より多く、意見が分かれた。

②取り組みが行われる前の平成19年と比べて、現在の中心市街地の観光面での魅力（観光施設・おもてなし等）はどうなったと思いますか。



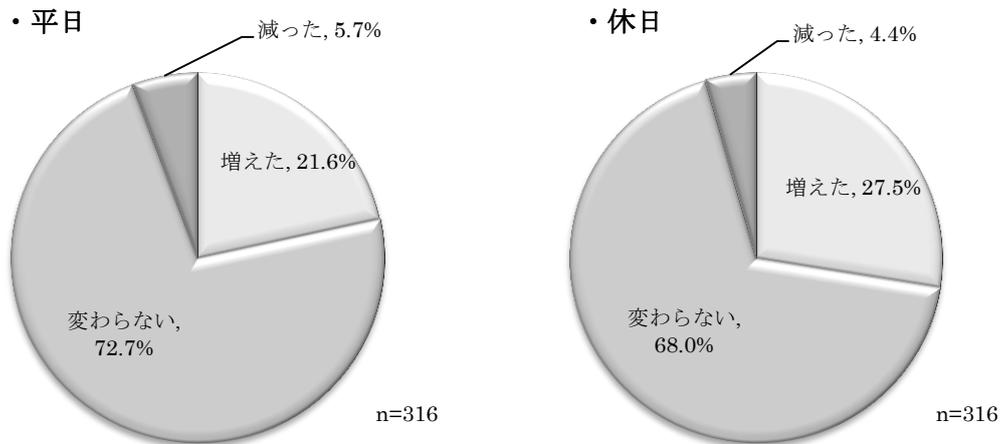
- ・ 魅力が向上したと回答した割合が約39%で、魅力が下がったと回答した割合の約3%を大きく上回る。
- ・ 年齢別で30・40歳代が、魅力が向上したと回答した割合が最も多い。

③取り組みが行われる前の平成19年と比べて、現在の中心市街地の商業面での魅力（商業施設、イベント等）はどうなったと思いますか。



- ・ 魅力が向上したと回答した割合が41%で、魅力が下がったと回答した割合の6%を大きく上回る。
- ・ 年齢別で30・40歳代は、魅力が向上した、または魅力が下がったとの回答割合が他の年代よりも多く、意見が分かれた。

④取り組みが行われる前の平成19年と比べて、現在、中心市街地に来る回数はどうなりましたか。



- ・ 休日に来る回数が増加したと回答した割合が約28%で平日の約22%より多い。
- ・ 平日、休日ともに、来る回数が増えたと回答した割合が、減ったと回答した人の割合よりも多い。

6. 今後の取組

活性化が図られつつある一方、新幹線開業効果が落ち着きを見せる中、今後は新幹線による効果を持続・拡大させ、中心市街地全体へさらに波及させることが重要である。

また、市民アンケートからも、中心市街地の活性化については肯定的な意見が多かったものの、大半は変わらないと答えており、活性化に向けた一層の取り組みが必要である。

今後は、認定を受けた2期計画に基づき、1期計画の成果を生かしながら、引き続き官民一体となって、各地区の魅力をさらに高め、回遊性の向上を図り、「観光・商業・交流によるにぎわいあふれるまちづくり」を推進していく。

具体的には、中央町19・20番街区の再開発事業、中央町1番街区等の商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島を増床など）、いづろ・天文館地区の再開発やアーケード整備、鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業などによって、各地区の集客拠点を整備するとともに、路面電車観光路線検討事業や自転車走行ネットワーク形成事業などによって、各地区をつないで回遊性の向上を図る。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
街なかのにぎわい創出と回遊性の向上	歩行者通行量	125,531 人/日 (H18年)	150,000 人/日 (H24年)	130,712 人/日	H24.10	B
九州新幹線の開業効果を生かした観光の振興	中心市街地の年間入込観光客数	6,801,000 人/年 (H18年)	8,000,000 人/年 (H24年)	7,762,000 人/年	H23	B
南九州随一の中心市街地の商店街活性化	小売業年間商品販売額	209,421 百万円/年 (H16年)	210,000 百万円/年 (H24年)	174,200 百万円/年 (H24年推計)	H24	<u>c</u>

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

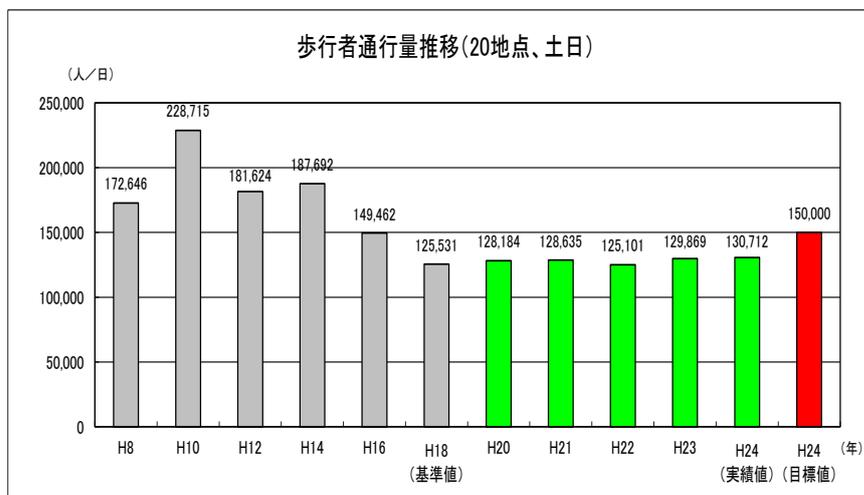
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標「街なかのにぎわい創出と回遊性の向上」

「歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P40～P46 参照

1. 目標達成状況の総括



年	(単位：人/日)
H18	125,531 (基準年値)
H20	128,184
H21	128,635
H22	125,101
H23	129,869
H24	130,712
H24	150,000 (目標値)

※調査方法；歩行者通行量調査（毎年度 10 月実施）

※調査月；平成 24 年 10 月調査

※調査主体；鹿児島市

※調査対象；土・日曜日 20 地点の歩行者及び軽車両通行者

【総括】

歩行者通行量は、平成 10 年以降、減少傾向にあったものが下げ止まり、平成 24 年の実績値は計画期間内で最も高くなっている。第 1 期基本計画に基づく取組により一定の成果があったものの、15 万人/日という目標は達成できなかった。

「(仮称) いづろ・天文館地区商業活性化事業（山形屋増床整備を含む）」が厳しい経済情勢のもと未完了となり、計画当初に見込んでいた歩行者通行量の押し上げ効果が得られなかった。

一方、親子つどいの広場「なかまっち」の整備や各種観光施策の推進などの各事業及びフォローアップにより追加した集客拠点施設の整備等の事業は、順調に実施でき、歩行者通行量は増加した。

地点別では、マルヤガーデンズ、LAZO表参道、いづろ商店街アーケードなどの集客拠点施設や快適な歩行空間の整備を実施した周辺では歩行者通行量が増加したが、空き店舗が増加している通りでは歩行者通行量が減少した。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①(仮称)いづろ・天文館地区商業活性化事業(山形屋増床整備を含む) 【(株)山形屋】

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金 —
事業開始・完了時期	平成 20 年度～
事業概要	老舗百貨店（山形屋）の増床（16,000 m ² ）、イベント広場及びプロムナードの整備。
目標値・最新値	目標値：41,258 人/日増 最新値：181 人/日増（※推計）
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	事業の一部は着手したものの、現在の厳しい経済情勢では、急速な個人消費の回復は望めないため、増床については実施を延期していることによる。
計画終了後の状況（事業効果）	事業予定地にイベント広場を暫定整備（平成 22 年 11 月）し、様々な催しを実施した結果、年間約 3 万 2 千人（H24 年度）が訪れた。
(仮称)いづろ・天文館地区商業活性化事業(山形屋増床整備を含む)の今後について	長引く景気低迷に伴う消費の冷え込みが続いている現時点においては、増床整備の再開の時期は未定であるが、引き続き実施主体との情報交換を行う中で、状況把握に努める。

※推計：実測によるものではなく、イベント等の事業実施状況から推計したもの。（以下同）

②(仮称)親子つどいの広場施設整備事業 【鹿児島市】

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金 平成 18 年度～平成 19 年度
事業開始・完了時期	平成 18 年度～平成 19 年度
事業概要	子育て中の親とその子どもが気軽に集い、育児相談、子育てに関連する情報交換等を行い、相互に交流できる子育て支援施設（614 m ² ）の整備。
目標値・最新値	目標値：214 人/日増 最新値：216 人/日増（推計）
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	核家族化などにより子育てに不安を抱える家庭が多くなっていることを背景に、親子が気軽に遊べること、親同士が情報交換できること、専門家へ相談できることなど市民ニーズに合った施設が、買い物つい

	でに立ち寄れる利便性の高いまちなかに立地したことが要因としてあげられる。
計画終了後の状況（事業効果）	計画の見込み利用者数 100 人/日を達成する 101 人/日（開業後の平均）が利用するなど、当初の計画どおりの効果が得られている。
（仮称）親子つどいの広場施設整備事業の今後について	実施済み

③大河ドラマ「篤姫」放映を生かした各種観光施策の推進等 【鹿児島市】

- i) 大河ドラマ「篤姫」対策推進事業（H19 年度～H20 年度）
- ii) 維新ふるさと館体感ホールリニューアル事業（H19 年度～H20 年度）
- iii) 歴史ロード“維新ふるさとの道”（仮称）整備事業（H18 年度～H21 年度）
- iv) 甲突川右岸緑地整備事業（H19 年度～H22 年度）
- v) 鹿児島ぶらりまち歩き推進事業（H18 年度～）
- vi) 가고しま水族館 10 周年記念事業（H18 年度～H22 年度）

支援措置名及び支援期間	i) 中心市街地活性化ソフト事業 平成 20 年 ii) ～vi) まちづくり交付金 平成 18 年度～
事業開始・完了時期	平成 18 年度～
事業概要	大河ドラマ「篤姫」の放映効果を生かすため、「篤姫館」を設置運営（平成 20 年 1 月～平成 21 年 3 月）するとともに、歴史観光の中核施設である「維新ふるさと館」では、「篤姫」の放映効果を持続させるため、「篤姫館」の一部の移設展示や体感ホールなどのリニューアルを行った。 また、「維新ふるさと館」のある甲突川左岸では、西郷隆盛・大久保利通らの誕生地に幕末から明治維新の歴史を感じながら散策できる“維新ふるさとの道”を整備するとともに、右岸では大型バスの駐車場を備えた観光交流センター等を整備した。 平成 18 年に作成したまち歩きコース集をもとにボランティアガイドによるまち歩きを実施（平成 20 年度～）するとともに、多くの観光客が利用するかごしま水族館では、開館 10 周年を記念してアクアギャラリー等の改修を行うなど、各種観光施策を展開した。
目標値・最新値	目標値：2,740 人/日増 最新値：2,733 人/日増（推計）
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	大河ドラマ放映に伴い設置した「篤姫館」（H20.1.6～H21.3.31）の入館者は、計画の 3 倍を超える 66.7 万人となった。放映終了後、「篤姫館」は閉館したが、展示物の一部は「維新ふるさと館」に移設展示されるとともに、近代日本の黎明期に活躍した本市ゆかりの偉人のオ

	<p>ブジェを街なかに設置するなど、篤姫効果は歴史を背景とする観光スポットの魅力を高めて、多くの歩行者を生んでいる。</p> <p>「維新ふるさと館」では、森有礼や五代友厚などの薩摩藩英国留学生をテーマとする新ドラマを楽しめるように体感ホールをリニューアルしたほか、篤姫館の展示を一部移設したことで、入館者数は、133,774人（H18）から40.5%増の187,937人（H24）に増え、平成22年度に整備した観光交流センターの入館者数は、35,901人（H24）となった。</p> <p>“維新ふるさとの道”は、観光客に対するアンケートで、訪問先として選ぶ割合が整備前より1.3%向上し、観光スポットとして魅力を発揮しつつある。</p> <p>また、“維新ふるさとの道”など観光地ガイドを配置した6地点には75,123人がガイドを利用し、ボランティアガイドによるまち歩きには3,163人が参加するなど、歩行者通行量を押し上げる効果があった。</p> <p>参加・体験型システムの導入等を行ったかごしま水族館の入館者数は、666,346人（H18）からH23には687,810人へと増えたが、H24は新幹線の乗客数が前年を下回るなどの影響を受け、652,382人へ減少した。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	上記のとおり、事業効果が表れている。
大河ドラマ「篤姫」放映を生かした各種観光施策の推進等の今後について	<p>i)～iv)、vi)のハード整備は実施済み。</p> <p>v)鹿兒島ぶらりまち歩き推進事業は、第2期基本計画においても引き続き実施する。</p>

④ LAZO表参道（天文館シネマパラダイス）の整備 【(株)天文館】

- i) (仮称) いづろ・天文館にぎわい創出事業（H19年度～）
- ii) いづろ・天文館地区にぎわい創出拠点施設整備事業（H21年度～H24年度）
- iii) 東千石町19番街区テナントミックス事業（H23年度～）

支援措置名及び支援期間	i) ii)暮らし・にぎわい再生事業 平成19年度、21年度、23年度 iii)戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金 平成23年度
事業開始・完了時期	平成19年度～平成24年度
事業概要	老舗百貨店（山形屋）の増床計画に伴う敷地整序型土地地区画整理事業により市が換地取得した土地等に文化商業複合施設（多目的ホール兼シネマコンプレックス、商業施設等）を整備した。
目標値・最新値	目標値：設定なし 最新値：整備したLAZO表参道に面する通りの歩行者通行量が4,042人/日増えた。
達成状況	—

達成した（出来なかった）理由	—
計画終了後の状況（事業効果）	映画館の開業後の利用者数は、当初計画を下回るものの、併設する飲食・物販等の店舗、託児施設の利用があることや、隣接する地下駐車場の4時間無料サービスの実施等により認知度が徐々に高まりつつある。L A Z O表参道周辺の歩行者通行量は3,407人/日（H18年）から7,449人/日（H24年）へと4,042人/日増加した。
L A Z O表参道（天文館シネマパラダイス）の整備の今後について	実施済み。 ※第2期基本計画では、L A Z O表参道内の天文館シネマパラダイスと周辺商店街の連携によるソフト事業を実施する。

⑤呉服町6番街区等整備事業〔株丸屋本社〕

支援措置名及び支援期間	暮らし・にぎわい再生事業 平成21年度
事業開始・完了時期	平成21年度～平成22年度
事業概要	平成21年5月に閉店した三越鹿児島店跡を取得・改修して、商業施設等（商業施設、コミュニティ施設、自走式立体駐車場）を整備した。
目標値・最新値	目標値：設定なし 最新値：整備したマルヤガーデンズには、閉店した三越鹿児島店より年間で約50万人増の来店があることから428人/日の増の効果があつたと推計される。
達成状況	—
達成した（出来なかった）理由	—
計画終了後の状況（事業効果）	本施設の特徴である各階に配置されたコミュニティスペースがNPOをはじめ地域住民による各種イベントに利用され（年間約600回）、お買い物場としてだけでなく交流の場として活用されていることから、来店客数は三越鹿児島店当時の約300万人（平成20年度）から50万人程増加した。
呉服町6番街区等整備事業の今後について	実施済み。

⑥安全で快適な歩行空間の整備〔鹿児島市〕

- i) 舗装新設・歩道整備事業（H18年度～H27年度）
- ii) ブルースカイ計画事業（H19年度～H27年度）
- iii) （仮称）清滝川通り整備事業（H19年度～H22年度）

iv) いづろ・天文館地区回遊空間づくり推進事業 (H21 年度～H24 年度)

v) 天文館通 1 号線緑化整備事業 (H23 年度)

支援措置名及び 支援期間	i)～v)まちづくり交付金 平成 18 年度～
事業開始・完了時 期	平成 18 年度～
事業概要	<p>段差解消、勾配緩和など歩道のバリアフリー化や電線類の地中化を行うとともに、清滝川通りにおいて廃止した路上駐車場部分に遊歩道を整備し、安全で快適な歩行空間を整備した。</p> <p>また、中央公園と天文館公園を結ぶ歩行軸を中心とした回遊空間づくりとして、オープンカフェ等の社会実験を実施したほか、天文館通 1 号線 (天文館 1 丁目商店街) において、路面の一部芝生化等の緑化整備と車両の一方通行化を行った。</p>
目標値・最新値	目標値：設定なし 最新値：－
達成状況	－
達成した (出来な かった) 理由	－
計画終了後の状 況 (事業効果)	<p>バリアフリー化、電線類の地中化については、順次実施しており、完了した区間では高齢者や車いす利用者等を含む歩行者の安全確保に寄与している。完了した清滝川通りの整備については、周辺住民等から「芝生がきれい景観がよくなった」、「歩行者数が以前より増えた」との評価を得ている。</p> <p>平成 22 年度に実施した社会実験では、歩行者通行量が 10% 増加するなど一定の効果があり、今後は施策の継続的な実施に向けた組織のあり方や広報活動のあり方について検討する必要がある。</p> <p>天文館通 1 号線の路面緑化は、平成 24 年 3 月に完了し、供用されたが、車や人の往来で踏まれ、大部分が一旦枯れたことから芝を張り替え、平成 25 年 3 月から再度、供用開始した。</p>
安全で快適な歩 行空間の整備の 今後について	<p>i) ii) は引き続き第 2 期基本計画において実施する。</p> <p>iii) v) は実施済み。</p> <p>iv) は社会実験を踏まえ、第 2 期基本計画ではスクランブル交差点化や観光バス乗降所の設置など来街者の利便性向上につながる方策を推進する。</p>

⑦魅力ある夜間景観の創造 [鹿児島市]

i) ファンタスティックイルミネーション推進事業 (H18 年度～H21 年度)

ii) 商店街ファンタスティックイルミネーション事業 (H18 年度～H22 年度)

iii) 市電軌道敷緑化整備事業 (H18 年度～H20 年度、H23 年度～24 年度)

iv) 冬季光の回廊事業 (H22 年度～)

支援措置名及び 支援期間	i)～iv)まちづくり交付金 平成 18 年度～
事業開始・完了時期	平成 18 年度～
事業概要	<p>公共施設のライトアップや商店街等によるイルミネーションの設置を官民一体となって実施した。</p> <p>また、宿泊観光客数の落ち込む冬季（12 月、1 月）における滞在型観光の推進や夜の回遊性向上を図るため、いづろ・天文館地区とウォーターフロント地区を結ぶ通り等にイルミネーションを設置し、「光の回廊」を整備した。</p>
目標値・最新値	目標値：設定なし 最新値：－
達成状況	－
達成した（出来なかった）理由	－
計画終了後の状況（事業効果）	<p>夜の景観や安全性が向上し、「イルミネーションがきれい」など、市民、観光客から好評を得ている。また、市電軌道敷の芝はライトアップされ、夜の街にアクセントをつけている。</p> <p>冬季光の回廊事業は、マイアミ通り及び臨港道路にイルミネーションを設置し、みなと大通り公園・ドルフィンポートのイルミネーション、電車通りのライトアップとつなぐことで、観光客等の夜の回遊性を高め、滞在型観光の推進が図られた。</p>
魅力ある夜間景観の創造の今後について	<p>i)～iii)は実施済み。</p> <p>iv)は、引き続き第 2 期基本計画で実施する。</p>

⑧天文館ショッピングモール化の推進 【商店街等】

- i) いづろ商店街ショッピングモール化事業（H19 年度～H20 年度）
- ii)（仮称）照国表参道商店街ショッピングモール化事業（H23 年度～）
- iii) 街なか空き店舗活用事業（H18 年度～H27 年度）
- iv) 商店街一店逸品運動推進事業（H15 年度～）
- v) 頑張る商店街支援事業（H19 年度～H27 年度）
- vi) にぎわい商店街づくり支援事業（H19 年度～）
- vii) 中心市街地にぎわい支援事業（H21 年度～H23 年度）
- viii) 街なかサービス推進事業（H24 年度～H27 年度）

支援措置名及び 支援期間	<p>i) 戦略的中心市街地中小商業等活性化支援事業費補助金 平成 19 年度～平成 20 年度</p> <p>ii) 戦略的中心市街地中小商業等活性化支援事業費補助金 ー</p> <p>iii) まちづくり交付金 平成 18 年度～</p> <p>iv) vi) vii) なし</p>
-----------------	--

	v) 中心市街地活性化ソフト事業 平成 20 年度～ viii) 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) 平成 24 年度～
事業開始・完了時期	平成 15 年度～
事業概要	<p>いづろ・天文館地区は、12 の商店街で総延長 3 km を越えるアーケードが整備されており、商業集積と合わせて巨大なショッピングモールを形成している。このうち、いづろ商店街と照国表参道商店街においてアーケードを整備するほか、商店街の取組への支援や空き店舗対策など各種商店街活性化施策を実施した。</p> <p>また、来街者への情報発信の拠点となる天まちサロンを運営し、イベントや観光情報の提供、ベビーカーの無料貸し出し、ミニチャレンジショップ等を実施した。</p>
目標値・最新値	<p>目標値：設定なし</p> <p>最新値：アーケード整備や天まちサロンの運営により、1,063 人/日増えた。</p>
達成状況	—
達成した(出来なかった)理由	—
計画終了後の状況(事業効果)	<p>いづろ商店街では、歩行者通行量が 11,695 人/日(H18 年)から 12,544 人/日(H24 年)へと 7.3% 増加したほか、通りに面した 1 階部分の空き店舗がなくなるなどアーケード整備の効果が表れている。</p> <p>一方、照国表参道商店街では、地権者の合意形成に時間がかかり事業が未着手の状態である。</p> <p>商店街一店逸品運動推進事業とにぎわい商店街づくり支援事業は、実施商店街がそれぞれ 1 件にとどまり、十分な効果が表れていない。</p> <p>中心市街地の空き店舗率は、郊外型大型商業施設が相次いで進出した平成 19 年度に 8.4% から 12.1% に増加したものの、空き店舗対策による延べ 18 件の新規出店(H19 年度～24 年度)等によって 7.6% に減少した。</p> <p>天まちサロンの来館者数は、22,157 人(H22 年度)、33,304 人(H23 年度)と年々増加し、来街者の利便性増進に一定の効果があつた。平成 24 年度は、街なかサービス推進事業として、場所を移転し、特産品のアンテナショップ等の機能を付加して取り組んだ結果、天まちサロンの来館者数は、38,976 人となった。</p> <p>これらの事業の実施により、中心市街地の歩行者通行量は増加し、にぎわいの創出という面において一定の成果があつた。</p>
天文館ショッピングモール化の推進の今後につ	<p>i) vii) は実施済み。</p> <p>ii) iii) v) viii) は、引き続き第 2 期基本計画で実施する。</p> <p>iv) vi) は十分な効果が表れておらず、第 2 期基本計画では実施しない。</p>

いて

⑨天文館地区でのイベント事業 [We Love 天文館協議会、実行委員会等]

- i) “We Love 天文館” 活性化事業 (H19 年度～)
- ii) アジア青少年芸術祭開催事業 (H18 年度～)
- iii) おはら祭推進事業 (S24 年度～)
- iv) かごしま春祭開催事業 (H19 年度～)
- v) バリアフリー天文館開催事業 (H11 年度～H22 年度)
- vi) おぎおんさあ (祇園祭) 開催事業 (S25 年度～)
- vii) “美味のまち鹿児島” 魅力づくり事業 (H21 年度～H27 年度)

支援措置名及び 支援期間	i) iv) v) vi) なし ii) vii) まちづくり交付金 平成 18 年度～ iii) 中心市街地活性化ソフト事業 平成 20 年度～
事業開始・完了時 期	昭和 24 年度～
事業概要	天文館地区の商店街、百貨店、町内会など多様な主体から構成される We Love 天文館協議会は、「市電ワンコインの日」や「天文館こどもフェスティバル」など通年で様々なイベントを実施した。 鹿児島県の季節を代表する祭りであるかごしま春祭 (春)、おぎおんさあ (夏)、おはら祭 (秋) を実施したほか、平成 21 年度から新たに鹿児島県の「食」をテーマに魅力を発信する“美味のまち鹿児島”魅力づくり事業を実施した。
目標値・最新値	目標値：設定なし 最新値：平成 21 年度に開始した “美味のまち鹿児島” 魅力づくり事業や We Love 天文館協議会の取組みにより平均 138 人/日増えたと推計される。
達成状況	—
達成した (出来な かった) 理由	—
計画終了後の状 況 (事業効果)	平成 24 年度は、天文館こどもフェスティバルに目標を上回る 15,700 人が来場し、市電ワンコインの日では、3 日間で 4,433 人の利用者が天文館を訪れた。 中心市街地で開催された、おはら祭 (約 23 万人)、かごしま春祭 (16 万人)、おぎおんさあには多くの観客が訪れ、“美味のまち鹿児島” 「薩摩美味維新 ^{さつまうまいいしん} 」では 宴 ^{だいやめ} まつり延べ出店数 (29 店舗)、食べ歩き・飲み歩き延べ参加店数 (129 店舗)、参加者数 (9,500 人) と多くの飲食店が協働し、食によるおもてなしを実施した。 これらの各種イベントが定着し、歩行者通行量の押し上げに貢献したと考えられる。
天文館ショッピ	v) を除いて、引き続き第 2 期基本計画で実施する。

ングモール化の
推進の今後につ
いて

v)は、第2期基本計画には掲載しないが、わくわく福祉交流フェアと
合わせて実施することで相乗効果が得られるようにする。

3.今後について

目標達成に向けた主要事業である(仮称)いづろ・天文館地区商業活性化事業(山形屋増床整備を含む)は、厳しい経済情勢を受けて未完了となり、計画当初に見込んでいた効果が得られなかったが、マルヤガーデンズやLAZO表参道などの集客の核となる施設の整備は、歩行者通行量の増加に効果があったことから、第2期基本計画において、商業・業務・住居施設を整備する中央町19・20番街区市街地再開発事業や、駅ビルの商業施設である中央駅1番街区等商業活性化事業(アミュプラザ鹿児島増床など)を実施するとともに、いづろ・天文館地区の再開発に向けた取組を推進し、各地区の魅力を高める。

また、商店街のショッピングモール化の推進により、歩行者通行量増の効果が得られたことから、引き続き降灰等の影響を受けずに買い物や散策ができるよう、アーケード整備などの関連する事業を実施する。

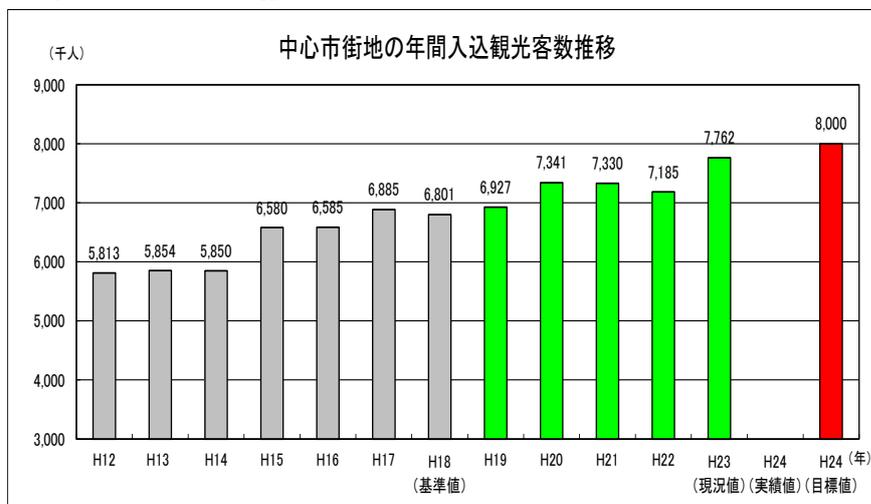
さらに、新幹線効果を中心市街地全体に波及させ、回遊性の向上を図るため、鹿児島中央駅地区からいづろ・天文館地区を通り、上町・ウォーターフロント地区へとつながる市電の観光路線新設に向けた検討を行う。

個別目標

目標「九州新幹線の開業効果を生かした観光の振興」

「中心市街地の年間入込観光客数」※目標設定の考え方基本計画 P47～P51 参照

1. 目標達成状況の総括



年	(単位：千人)
H18	6,801 (基準年値)
H19	6,927
H20	7,341
H21	7,330
H22	7,185
H23	7,762
H24	8,000 (目標値)

※調査方法；観光統計調査

※調査月；平成23年の実績を平成24年8月に集計

※調査主体；鹿児島市

※調査対象；高速道路、鉄道、バス、船舶等の各種交通機関利用者及び中心市街地内の宿泊施設利用者

【総括】

中心市街地の年間入込観光客数は、九州新幹線全線開業を見据えた取組等の効果によって大幅に増加し、平成23年には過去最高の776万2千人を記録したが、平成24年夏以降、新幹線の乗客数や県内の月別宿泊客数は前年を下回るなど新幹線全線開業効果が落ち着きつつある状況を勘案すると、目標とする800万人は難しい見込みである。

入込観光客が増えた要因として、平成20年に放映された大河ドラマ「篤姫」による効果を生かすために取り組んだ大河ドラマ「篤姫」対策推進事業等が挙げられ、20年度の入込観光客数は対前年度で40万人以上増加した。さらに、放映終了後にリニューアルオープンした維新ふるさと館体感ホールや歴史ロード“維新ふるさとの道”等の効果によって反動による減少も抑制できた。

また、鹿児島中央駅地区の交通結節機能を強化するバスターミナルと、商業・業務・宿泊施設を兼ね備えた鹿児島中央ターミナルビルや、観光客をもてなし、鹿児島の美味しい食材による郷土料理等を提供する25店舗が出店した「かごつまふるさと屋台村」等がオープンし、観光面で貢献している。

一方、平成24年夏以降、新幹線の乗客数や県内の月別宿泊客数は前年を下回るなど新幹線全線開業効果が落ち着きつつある。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①大河ドラマ「篤姫」放映を生かした各種観光施策の推進等〔鹿児島市〕

i)大河ドラマ「篤姫」対策推進事業（H19年度～H20年度）

ii)歴史ロード“維新ふるさとの道”（仮称）整備事業（H18年度～H21年度）

支援措置名及び支援期間	i)中心市街地活性化ソフト事業 平成20年度 ii)まちづくり交付金 平成18年度～平成21年度
事業開始・完了時期	平成18年度～平成21年度
事業概要	大河ドラマ「篤姫」の放映効果を生かすため、「篤姫館」を設置運営（平成20年1月～平成21年3月）するとともに、西郷隆盛・大久保利通らの誕生地がある甲突川左岸では、幕末から明治維新の歴史を感じながら散策できる“維新ふるさとの道”を整備した。
目標値・最新値	目標値：500,140人増 最新値：419,148人増（推計）
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	大河ドラマ放映に伴い設置した「篤姫館」（H20.1.6～H21.3.31）の入館者は、計画の3倍を超える66.7万人となった。放映終了後、「篤姫館」は閉館したが、展示物の一部は「維新ふるさと館」に移設展示されるとともに、近代日本の黎明期に活躍した本市ゆかりの偉人のオブジェを街なかに設置するなど、篤姫効果は歴史を背景とする観光スポットの魅力を高めている。 また、“維新ふるさとの道”は、観光客に対するアンケートで、訪問先として選ぶ割合が整備前より1.3%向上し、観光スポットとして魅力を発揮しつつある。 「篤姫」放映の効果はH20をピークに低減したものの、全体としては、各種観光施策の効果が発現している。
計画終了後の状況（事業効果）	「篤姫館」はドラマの放映終了に伴い閉館したが、展示の一部を「維新ふるさと館」に移設した。また、“維新ふるさとの道”は、鹿児島ぶらりまち歩きのコースに組み込み、歴史探訪ができる観光コースを提供している。
大河ドラマ「篤姫」放映を生かした各種観光施策の推進等の今後について	実施済み。

②維新ふるさと館体感ホールリニューアル事業、かごしま水族館10周年記念事業〔鹿児島市〕

支援措置名及び 支援期間	まちづくり交付金 平成 18 年度～平成 21 年度
事業開始・完了時期	平成 18 年度～平成 21 年度
事業概要	<p>歴史観光の中核施設である「維新ふるさと館」では、「篤姫」の放映効果を持続させるため、「篤姫館」の一部の移設展示や体感ホールなどのリニューアルを行った。</p> <p>また、多くの観光客が利用するかごしま水族館では、開館 10 周年を記念してアクアギャラリー等の改修を行った。</p>
目標値・最新値	<p>目標値：113,120 人増</p> <p>最新値：28,139 人増（推計）</p>
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	<p>計画期間中、宮崎で口蹄疫が発生し、入館者数が一時落ち込んだ影響があった。また、「篤姫」放映の効果は H20 をピークに低減したものの、全体としては、各種観光施策の効果が発現している。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	<p>森有礼や五代友厚などの薩摩藩英国留学生をテーマとする新ドラマを楽しめるように体感ホールをリニューアルしたほか、篤姫館の展示を一部移設したことにより、「維新ふるさと館」の入館者数は、当初の計画を超える平成 18 年比 40.5%増の 187,937 人（H24）となった。</p> <p>一方、参加・体験型システムの導入等を行ったかごしま水族館の入館者数は、平成 18 年比 2.1%減の 652,382 人（H24）となった。</p>
維新ふるさと館 体感ホールリ ニューアル事業、か ごしま水族館 1 0 周年記念事業 の今後について	実施済み。

③鹿児島ぶらりまち歩き推進事業 【鹿児島市、観光コンベンション協会】

支援措置名及び 支援期間	まちづくり交付金 平成 20 年度～
事業開始・完了時期	平成 18 年度～
事業概要	<p>平成 18 年に作成したまち歩きコース集をもとに、気軽に歴史探訪を楽しめるよう、ボランティアガイドによるまち歩きを実施（平成 19 年度～）した。</p>
目標値・最新値	<p>目標値：8,547 人増</p> <p>最新値：54,800 人増（推計）</p>
達成状況	達成

達成した（出来なかった）理由	当初、積算していたボランティアガイドによるまち歩きに加え、観光スポットにガイドを配置したことにより、計画を上回る効果を得られた。
計画終了後の状況（事業効果）	・まち歩き参加者：3,163人 ・観光スポットガイド利用者：75,123人
鹿児島ぶらりまち歩き推進事業の今後について	第2期基本計画においても、引き続き実施する。

④(仮称)いづろ・天文館地区商業活性化事業(山形屋増床整備を含む) 【(株)山形屋】

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金 —
事業開始・完了時期	平成20年度～【未完了】
事業概要	老舗百貨店（山形屋）の増床（16,000㎡）、イベント広場及びプロムナードの整備。
目標値・最新値	目標値：1,118,785人増 最新値：9,600人増（推計）
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	事業の一部は着手したものの、現在の厳しい経済情勢では、急速な個人消費の回復は望めないため、増床については実施を延期している。
計画終了後の状況（事業効果）	事業予定地にイベント広場を暫定整備（平成22年11月）し、様々な催しを実施した結果、年間約3万2千人が訪れた。
(仮称)いづろ・天文館地区商業活性化事業(山形屋増床整備を含む)の今後について	長引く景気低迷に伴う消費の冷え込みが続いている現時点においては、増床整備の再開の時期は未定である。

⑤甲突川右岸緑地整備事業 【鹿児島市】

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金 平成19年度～平成22年度
事業開始・完了時期	平成19年度～平成22年度
事業概要	甲突川右岸緑地及びその周辺に、観光交流センターや観光バス駐車場を整備するとともに、観光客や市民が快適に散策できる回遊性のあるゾーンづくりを行い、観光の振興を図った。
目標値・最新値	目標値：設定なし 最新値：観光交流センターと甲突川右岸緑地を訪れた人は163,002人

	と推計される。
達成状況	—
達成した（出来なかった）理由	—
計画終了後の状況（事業効果）	<p>観光客に対するアンケートにおいて、新たに整備した甲突川右岸緑地や観光交流センターを訪問先として選ぶ人が2.1%あり、平成24年度の観光交流センターの利用者は35,901人であった。鹿児島中央駅からほど近く、明治維新ゆかりの偉人を多く輩出した地域という立地性も生かして、まち歩き拠点として機能している。</p> <p>また、中心市街地に不足していた観光バス駐車場が整備されたことで、入込観光客増にも貢献している。</p>
甲突川右岸緑地整備事業の今後について	実施済み。

⑥海を生かした観光の振興 【鹿児島市等】

- i) かがしま錦江湾サマーナイト大花火大会開催事業（H12年度～）
- ii) 鹿児島カップ火山めぐりヨットレース開催事業（S63年度～）
- iii) “みなとゆめ市場”開催事業（H17年度～H19年度）
- iv) よりみちクルーズ船運航事業（H22年度～）
- v) 遊覧船運航事業（S53年度～）
- vi) 新船建造事業（H19年度～H22年度）

支援措置名及び支援期間	i) ii) 中心市街地活性化ソフト事業 平成19年度～ iii)～v) なし vi) まちづくり交付金 平成20年度～平成22年度
事業開始・完了時期	昭和53年度～
事業概要	「霧島錦江湾国立公園」に含まれる活火山・桜島と波穏やかな錦江湾は、他に類例を見ない、雄大な自然を体感できる本市の観光資源である。これらの資源を楽しめるウォーターフロントを活用し、南国かごしまの夏を楽しめる花火大会やヨットレース等のイベントを開催するとともに、桜島と錦江湾の魅力を体験するクルーズ船事業等を実施した。
目標値・最新値	目標値：設定なし 最新値：平成22年度から開始したよりみちクルーズ船の乗船客は17,403人であった。
達成状況	—
達成した（出来なかった）理由	—

<p>計画終了後の状況（事業効果）</p>	<p>かごしま錦江湾サマーナイト大花火大会は、かごしまの夏の風物詩として多くの観光客と市民に親しまれ、平成 24 年度は約 13 万人の来場者でにぎわった。</p> <p>また、中心市街地と桜島を結ぶ航路として、新たに錦江湾を南に下り 50 分をかけて洋上のひと時を楽しめるコースを開発したよりみちクルーズ船運航事業は、非日常的なゆったりした時間の使い方を提供し、平成 24 年度は 17,403 人の乗船客を、また遊覧船運航事業は 31,698 人の乗船者を集め、観光客の増に貢献した。</p> <p>これらの運航事業や定期航路に使用するために建造した新船は、同規模の既存船より燃料消費量が改善されるとともに、二酸化炭素排出量等の低減も図られ、環境への負担を軽減した。</p>
<p>海を生かした観光の振興の今後について</p>	<p>i) iv) v) は、第 2 期基本計画においても引き続き実施する。</p> <p>ii) は、会場であった鹿児島港本港区が護岸整備を行うため、今後数年間は中心市街地外で実施する。</p> <p>iii) vi) は実施済み。</p>

⑦魅力ある夜間景観の創造 【鹿児島市】

- i) ファンタスティックイルミネーション推進事業（H18 年度～H21 年度）
- ii) 商店街ファンタスティックイルミネーション事業（H18 年度～H22 年度）
- iii) 市電軌道敷緑化整備事業（H18 年度～H20 年度、H23 年度～24 年度）
- iv) 冬季光の回廊事業（H22 年度～）

<p>支援措置名及び支援期間</p>	<p>i)～iv)まちづくり交付金 平成 18 年度～</p>
<p>事業開始・完了時期</p>	<p>平成 18 年度～</p>
<p>事業概要</p>	<p>公共施設のライトアップや商店街等によるイルミネーションの設置を官民一体となって実施した。</p> <p>また、宿泊観光客数の落ち込む冬季（12 月、1 月）における滞在型観光の推進や夜の回遊性向上を図るため、いづろ・天文館地区とウォーターフロント地区を結ぶ通り等にイルミネーションを設置し、「光の回廊」を整備した。</p>
<p>目標値・最新値</p>	<p>目標値：設定なし 最新値：－</p>
<p>達成状況</p>	<p>－</p>
<p>達成した（出来なかった）理由</p>	<p>－</p>
<p>計画終了後の状況（事業効果）</p>	<p>夜の景観や安全性が向上し、「イルミネーションがきれい」など、市民、観光客から好評を得ている。また、市電軌道敷の芝はライトアップされ、夜の街にアクセントをつけている。</p>

	冬季光の回廊事業は、マイアミ通り及び臨港道路にイルミネーションを設置し、みなと大通り公園・ドルフィンポートのイルミネーション、電車通りのライトアップとつなぐことで、観光客等の夜の回遊性を高め、滞在型観光の推進が図られた。
魅力ある夜間景観の創造の今後について	i)～iii)は実施済み。 iv)は、引き続き第2期基本計画で実施する。

⑧ “美味のまち鹿児島” 魅力づくり事業 【“美味のまち鹿児島” 魅力づくり協議会】

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金 平成 21 年度～
事業開始・完了時期	平成 21 年度～
事業概要	「薩摩 ^{さつま} 美味 ^{うまい} 維新 ^{いしん} 春の ^{はる} 宴 ^{えん} 」等のイベントを開催し、「食」をテーマとする新たな魅力づくりを行うとともに、ガイドブックの作成や雑誌への広告掲載などにより県内外への効果的な情報発信を行った。
目標値・最新値	目標値：設定なし 最新値：平成 21 年度から開始した“美味のまち鹿児島” 魅力づくり事業のイベント会場には 9,500 人が訪れた。
達成状況	—
達成した（出来なかった）理由	—
計画終了後の状況（事業効果）	平成 24 年度の「薩摩 ^{さつま} 美味 ^{うまい} 維新 ^{いしん} 」は四季折々に年 4 回開催し、鹿児島ならではの焼酎利き酒や振る舞い酒、ナンコ体験、桜島溶岩焼きなどを特設ステージの催しとともに開催し、会場出店した延べ 29 店舗に 9,500 人の参加者が訪れた。同時開催した「飲み歩き・食べ歩き」に参加した延べ 129 店舗にも多くの客が訪れ、観光客に鹿児島らしい夜の楽しみを提供した。
“美味のまち鹿児島” 魅力づくり事業の今後について	第 2 期基本計画においても、引き続き実施する。

⑨ 中央町 1 1 番街区再開発事業 【南国殖産(株)等】

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 22 年度～平成 23 年度
事業概要	九州新幹線の全線開業により県内外との接続性が一層充実した鹿児

	島中央駅地区において、バスターミナルや商業・業務・宿泊施設を備えたターミナルビルを整備した。
目標値・最新値	目標値：設定なし 最新値：平成 24 年 5 月にオープンしたホテルの宿泊客は約 6 万人であった。
達成状況	—
達成した（出来なかった）理由	—
計画終了後の状況（事業効果）	バスターミナルビル、オフィス部分は平成 24 年 4 月に、ホテル、飲食店は同年 5 月にオープン。バスターミナルは年間 110 万人の乗降客を、ホテルは年間 7 万人の宿泊客を見込み、平成 25 年 3 月末までに、それぞれ 113 万人、約 6 万人が利用するなど、概ね順調に推移している。
中央町 1 1 番街区再開発事業の今後について	実施済み。

⑩中央町 6 番街区屋台村整備・運営事業 【南国殖産(株)等】

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 23 年度～
事業概要	本市を訪れる多くの観光客への“おもてなし”として鹿児島県の食文化を提供し、その魅力を発信する屋台村を整備した。
目標値・最新値	目標値：設定なし 最新値：オープンからの 1 年間で 50 万人が訪れ、この内の観光客は 15 万人と推計される。
達成状況	—
達成した（出来なかった）理由	—
計画終了後の状況（事業効果）	平成 24 年 4 月に「かごつまふるさと屋台村」としてオープン。年間目標の 30 万人に対し 50 万人を超える人が訪れ、賑わいを創出している。
中央町 6 番街区屋台村整備・運営事業の今後について	実施済み。

⑪公共交通を活用した観光の振興 【鹿児島市】

i) カゴシマシティビュー運行事業 (H6 年度～)

ii) 観光レトロ電車製作事業 (H23 年度～H24 年度)

支援措置名及び 支援期間	i) なし ii) 社会資本整備総合交付金 (都市・地域交通戦略推進事業と一体の効果促進事業) 平成 23 年度～平成 24 年度
事業開始・完了時期	平成 6 年度～
事業概要	本市を訪れる観光客の回遊性を高めるとともに、観光スポット巡りの利便性・快適性向上を図るため、ユニークな車両に仕上げた市内観光周遊バス“カゴシマシティビュー”を、鹿児島中央駅を起点に運行する。 また、本市で路面電車の運行が開始されてから平成 24 年 12 月 1 日に 100 周年を迎えることを記念して、観光レトロ電車を製作し、運行を開始する。
目標値・最新値	目標値：設定なし 最新値：カゴシマシティビューの利用者が基準年に比べ 9,849 人増えた。
達成状況	—
達成した(出来なかった)理由	—
計画終了後の状況(事業効果)	シティビューは、ルート上で別途開始した冬季光の回廊事業による景観向上の効果も取り入れるなどした結果、平成 24 年度には、平成 18 年度比で約 5% 増となる 200,059 人の利用者があった。 また、観光レトロ電車は、平成 24 年 12 月の運行開始以降、1,789 人の乗客数があった。
公共交通を活用した観光の振興の今後について	i) 第 2 期基本計画においても、引き続き実施する。 ii) 実施済み。

3. 今後について

本市固有の観光資源を楽しめる都市型観光の振興は有効であると考えられることから、第 2 期基本計画においては、歴史・文化ゾーンを区域に加え、いづろ・天文館地区等との連携・回遊性を向上させていく。

また、目標達成のためには新幹線効果の持続・拡大を図ることが重要であり、第 1 期基本計画で効果が表れている鹿児島ぶらりまち歩き推進事業やよりみちクルーズ船運航事業などを引き続き実施するとともに、さらなる魅力を創出していくため、本市の観光資源である幕末・明治維新に象徴される個性ある歴史・文化を生かした取組として、明治維新 150 周年にあたる H30 年まで毎年、薩英戦争や薩長同盟など、近代日本の礎を築いた鹿児島に関する出来事を題材とするイベントを開催する事業を実施するなど、観光の推進に更に取り組む。併せて、観光客への案内・情報発信機能の充実や増加している外国

人観光客への対応についても充実に努める必要がある。

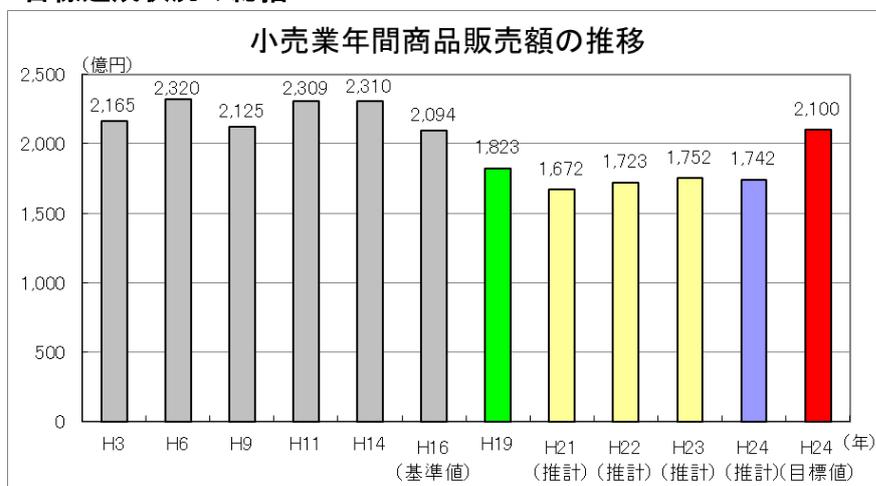
さらに、新幹線効果を中心市街地全体に波及させ、回遊性の向上を図るため、鹿児島中央駅地区からいづろ・天文館地区を通り、上町・ウォーターフロント地区へとつながる市電の観光路線新設に向けた検討を行う。

個別目標

目標「南九州随一の商店街活性化」

「小売業年間商品販売額」※目標設定の考え方基本計画 P52～P55 参照

1. 目標達成状況の総括



年	(単位：億円)
H16	2,094 (基準年値)
H19	1,823
H21	1,672 (推計)
H22	1,723 (推計)
H23	1,752 (推計)
H24	1,742 (推計)
H24	2,100 (目標値)

※調査方法；平成 19 年商業統計をもとに、中心市街地内の大型店の売上から推計

※調査月；推計（平成 25 年 4 月）

※調査主体；経済産業省調査より鹿児島市推計

※調査対象；中心市街地内の大型店 2 店

【総括】

小売業年間商品販売額は、長引く景気低迷に伴う消費の冷え込みや電子商取引などの通信販売の増加、中心市街地外への大型商業施設の立地等の影響によって低迷しており、目標は達成できない見込みである。

特に、主要な事業として位置付けていた（仮称）いづろ・天文館地区商業活性化事業（山形屋増床整備を含む）は、長引く景気低迷の影響を受けて事業延期となったことから、当初計画していた効果が得られなかった。

一方、鹿児島中央駅地区においては、中央町 2 2、2 3 番街区の市街地再開発事業等を実施し、周辺商店街との連携策も組み合わせた商業活性化に努めるとともに、いづろ・天文館地区においては、アーケードでつながった商店街をショッピングモールに見立てた、いづろ商店街ショッピングモール化事業や街なか空き店舗活用事業等の各種事業を実施した。さらに、毎年度のフォローアップに基づき、閉店した三越鹿児島店の空きビルをマルヤガーデンズとしてオープンさせる呉服町 6 番街区等整備事業を追加実施した。

なお、中心市街地では、観光客の増などにより飲食・宿泊、サービス業などの集積が進みつつあるなど、小売業以外のニーズも積極的に取り込もうとする変化が見られる。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①(仮称)いづろ・天文館地区商業活性化事業(山形屋増床整備を含む)〔株山形屋〕

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金 —
事業開始・完了時期	平成 20 年度～
事業概要	老舗百貨店（山形屋）の増床（16,000 m ² ）、イベント広場及びプロムナードの整備。
目標値・最新値	目標値：84 億円 最新値：—
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	事業の一部は着手したものの、現在の厳しい経済情勢では、急速な個人消費の回復は望めないため、増床については実施を延期している。
計画終了後の状況（事業効果）	事業予定地にイベント広場を暫定整備（平成 22 年 11 月）し、様々な催しを実施した結果、年間約 3 万 2 千人が訪れたが、当初計画した増床は実施できず、小売業年間商品販売額の増には至っていない。
(仮称)いづろ・天文館地区商業活性化事業(山形屋増床整備を含む)の今後について	長引く景気低迷に伴う消費の冷え込みが続いている現時点においては、増床整備の再開の時期は未定である。

②再開発事業に伴う商業の活性化〔再開発組合、商店街〕

- i) 中央町 2 2 番街区市街地再開発事業（H17 年度～H21 年度）
- ii) 中央町 2 3 番街区市街地再開発事業（H17 年度～H22 年度）
- iii) 中央町 2 2 番街区テナントミックス事業（H21 年度～）

支援措置名及び支援期間	i) ii) まちづくり交付金 平成 19 年度～平成 22 年度 iii) 戦略的中心市街地中小商業等活性化支援事業費補助金 平成 21 年度
事業開始・完了時期	平成 17 年度～平成 22 年度
事業概要	九州新幹線全線開業に向けて、鹿児島中央駅周辺の活性化に資するため、中央町 22 番街区及び 23 番街区に商業・業務・住居機能を有する再開発ビルを整備し、テナントミックス事業により生鮮三品を扱う店舗を誘致した。
目標値・最新値	目標値：5.5 億円 最新値：—

	※再開発ビルに出店した各店舗の小売業年間商品販売額は公表されておらず、算出不可。
達成状況	—
達成した（出来なかった）理由	—
計画終了後の状況（事業効果）	<p>平成 22 年にオープンした 2 つの再開発ビルには、整備された 88 戸の全室に入居者があり、都心居住者の増加が商業の活性化に寄与している。</p> <p>また、権利床に継続出店した街の老舗商店と、テナントミックス事業によって誘致出店した新たな店舗で構成された商業施設には、1 日平均 900 人の買い物客が訪れ、毎月第 4 土曜、日曜日に商店街と連携して開催する物産展なども好評で、来街者促進と賑わい創出に貢献している。</p>
再開発事業に伴う商業の活性化の今後について	i)～iv)実施済み。

③年間入込観光客数の増加による小売販売額の増加

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	—
事業概要	<p>九州新幹線全線開業による本市への入込観光客の増加を、観光施策等を始めとした各種事業の実施や「かごしま春祭」、「おはら祭」などのイベントの実施を通じて、中心市街地内に吸引し、中心市街地を訪れた観光客等が、まちなかで買物がしたくなるような店舗・商品構成を取り入れた魅力的な商店街づくりや、訪れる人を「おもてなしの心」で迎える接客態度の養成などに積極的に取り組む。</p>
目標値・最新値	<p>目標値：66 億円</p> <p>最新値：19 億円（推計）</p>
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	<p>観光客数は増加しているものの、目標値には達していないこと、また、観光客が購入する土産品の購入単価が、1 期計画策定時から減少していることから、小売業年間商品販売額への効果に差が出ている。購入単価の減少は、景気低迷に伴う個人消費の冷え込みなどによるものと考えられる。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	—
再開発事業に伴	—

う商業の活性化
の今後について

④L A Z O表参道（天文館シネマパラダイス）の整備 〔株天文館〕

- i) (仮称) いづろ・天文館にぎわい創出事業 (H19 年度～)
- ii) いづろ・天文館地区にぎわい創出拠点施設整備事業 (H21 年度～H24 年度)
- iii) 東千石町 19 番街区テナントミックス事業 (H23 年度～)

支援措置名及び 支援期間	i) ii)暮らし・にぎわい再生事業 平成 19 年度、21 年度、23 年度 iii)戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金 平成 23 年度
事業開始・完了時 期	平成 19 年度～平成 24 年度
事業概要	老舗百貨店（山形屋）の増床計画に伴う敷地整序型土地区画整理事業により市が換地取得した土地等に文化商業複合施設（多目的ホール兼シネマコンプレックス、商業施設等）を整備した。
目標値・最新値	目標値：設定なし 最新値：－ ※当施設に出店した各店舗の小売業年間商品販売額は公表されておらず、算出不可。
達成状況	－
達成した（出来な かった）理由	－
計画終了後の状 況（事業効果）	当施設が属する商店街では施設の開業を機に 2 割程度あった 1 階部分の空き店舗がなくなる（H25.1 時点）など商店街活性化へも貢献している。
L A Z O表参道 （天文館シネマ パラダイス）の整 備の今後につい て	実施済み。 ※第 2 期基本計画では、整備した L A Z O表参道内にある天文館シネマパラダイスと周辺商店街の連携によるソフト事業を実施する。

⑤呉服町 6 番街区等整備事業 〔株丸屋本社〕

支援措置名及び 支援期間	暮らし・にぎわい再生事業 平成 21 年度
事業開始・完了時 期	平成 21 年度～平成 22 年度
事業概要	平成 21 年 5 月に閉店した三越鹿児島店跡を取得・改修して、商業施設等（商業施設、コミュニティ施設、自走式立体駐車場）を整備した。
目標値・最新値	目標値：設定なし 最新値：固定賃料のみの契約で売上を把握できないテナントがあるが、

	70 億円程度と推計される。
達成状況	—
達成した（出来なかった）理由	—
計画終了後の状況（事業効果）	来店客数は三越鹿児島店当時の約 300 万人（平成 20 年度）から 50 万人程増加したが、小売業年間商品販売額は三越鹿児島店当時の約 100 億円には及ばない。
呉服町 6 番街区等整備事業の今後について	実施済み。

3. 今後について

第2期基本計画においては、中心市街地の最大の魅力である商業機能に加え、交流人口の増によって集積が進みつつある飲食・宿泊業などのサービス機能の充実を図るとともに、働く場として業務機能のさらなる集積を図り、快適で楽しく過ごせる多面的な魅力とにぎわいあふれるまちづくりを推進する。

合わせて、小売業、飲食・宿泊業、サービス業などの経済動向を総合的に把握する必要があるため、目標指標を小売業年間商品販売額に代えて、第三次産業従業者数を設定する。

第2期基本計画における具体の取組としては、商業・サービス業施設を整備する中央町1番街区等商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島島の増床など）、商業・業務施設等を整備する中央町 19・20 番街区市街地再開発事業、飲食・商業施設等を整備する東千石町 12 番街区整備事業を新たに実施するほか、1 期計画から引き続き、商店街への新規出店に対して支援を行う街なか空き店舗活用事業を実施する。